

令和6年度（2024）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

穴吹調理製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 穴吹調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、令和6年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

令和7年3月18日

学校法人穴吹学園 穴吹調理製菓専門学校
学校関係者評価委員会

1.学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて穴吹調理製菓専門学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹調理製菓専門学校が行なった教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2.学校関係者評価委員会

(委員)

村上 勝彦	有識者委員	広島県洋菓子協会理事
田淵 浩	企業等委員	菓子工房サンクラフィューユ オーナーパティシエ
鈴木 淳	企業等委員	旬彩の隠れ家フレンチ アンジュール オーナーシェフ
田島 建彦	高等学校関係委員	元高等学校校長
山本 啓文	卒業生代表委員	やまもと商店オーナー (欠席)
高山 美穂子	在校生保護者委員	在校生保護者

(学校教職員)

田淵 照之	穴吹調理製菓専門学校	校長
信岡 誠三	穴吹調理製菓専門学校	統括副校長
高橋 克行	穴吹調理製菓専門学校	教務課長

3.学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和7年3月18日(火) 13:00～14:20

開催場所 穴吹調理製菓専門学校校舎 2階レストラン

4.自己評価結果の説明・報告（自己評価報告書参照）

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和6年度の目標と計画」について説明。

各自己評価項目に関し「評価結果（総括）」、「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

教育理念、教育目標、教育方針について説明

自己評価報告書

令和6年度の目標と計画

(重点目標)

1. 出願目標104名とし、入学目標である62名を達成する
2. 担任と管理職が連携の上、学生、保護者とも早期に対応し、退学率3%未満を達成する
3. 学科ごとに教育内容の更なる充実を図り、業界並びに地域社会から必要とされる人材を育成する
4. 新しいことへ積極的に挑戦する一方、業務の効率化・簡略化も進め、教育力と収益力を向上させる

(目標達成のための具体的事業計画、行動計画)

- I. 体験メニューの内容および魅せ方を再検討し、各学科の魅力と安心感を提供することで入学目標である62名を達成する
- II. 教務の新規体制を早期に確立し、分野のやりがいやおもしろさを実習を通じて教授することで退学率3%未満を達成する
- III. 製菓販売や特別授業、試食研修、サービス実習等を通して就職意識を向上させ、専門分野への内定を意識したマッチング指導にて、2月末までに内定率100%を達成する

評価項目別評価結果

×項目の内容と改善点などについて主に報告

- ・3-11- d 県内の他の専修学校・各種学校と協力・連携した教育を行っていますか

当校独自では、県内の他の専修学校・各種学校と協力・連携した教育を行っていない。ただし、広島県専修学校各種学校連盟等、公共性の立場である団体、協会からの協力依頼があれば、積極的に参加協力したいと考えている。

- ・5-2- c より高度な学習・研究ができるよう大学等との併修または接続が可能な体制等を取っていますか
現状は併修、または接続が可能な体制は取れていないが、令和8年度から単位制を導入する予定で、今よりも大学等との併修、接続なども、よりやりやすくなると思われる。

- ・5-12- b 教育訓練給付金対象の講座指定を受け、社会人入学生の学費軽減に努めていますか
最短修業年数で資格を取得することが可能な1年制課程を数年前に廃止(調理学科、並びに製菓学科)したため、現在は教育訓練給付金対象学科としての条件を現状満たしていない。
1年制課程は、社会人、大卒、大学中退等の高校既卒者が多いため、この既卒者からの1年制課程のニーズが今後、出てくるようであれば、1年制課程の再度立ち上げることも検討する予定はある。

- ・7-3- b 教育訓練給付制度(一般教育訓練給付・専門実践教育訓練給付)を利用できるよう取組んでいますか

上記、5-12-b と合わせて同様の回答

最短修業年数で資格を取得することが可能な1年制課程を数年前に廃止(調理学科、並びに製菓学科)したため、現在は教育訓練給付金対象学科としての条件を現状満たしていない。
1年制課程は、社会人、大卒、大学中退等の高校既卒者が多いため、この既卒者からの1年制課程のニーズが今後、出てくるようであれば、1年制課程の再度立ち上げることも検討する予定はある。

- ・10-4- a 県専各連合会の若年者職業意識涵養事業（県の委託事業）に積極的に参加していますか

3-11- d と合わせて同様の回答

当校独自では、県内の他の専修学校・各種学校と協力・連携した教育を行っていない。ただし、広島県専修学校各種学校連盟等、公共性の立場である団体。協会からの協力依頼があれば、積極的に参加協力したいと考えている。

自己評価結果（総括）

目標達成状況

1. 入学目標

令和6年度 入学目標達成（令和7年度生）

2. 退学率目標

令和6年度 退学率目標達成

3. 就職目標

令和6年度 就職目標達成

自己評価報告書に対する委員からの質問

○穴吹調理製菓専門学校に入学する学生は、どのような希望を持って入学してくるのか

学生それぞれの夢・目標は違うが、ホテルやレストランで調理師として、パティシエとして働きたいという目標を持ち、なかには、将来、自分で店を持ちたいという大きな夢を持って入学し、その自己実現のため、日々頑張っている。

調理師、パティシエという分かりやすい職業なので、その職業に就くために学びたいという意識の高い学生が多いので、クラス内もまとまりがよい。

○教育訓練給付金制度は、本当に穴吹学園で導入することは難しいのか。

多くの制度利用の声があれば、もちろん検討するが、この制度は最短で取得できる調理の1年制課程の学科でしか厚生労働省が認めておらず、今は、広島県東部での1年制課程の調理師学科のニーズはなく、立ち上げをすることが困難な状況である。

また、立ち上げることになれば、すぐに連絡させていただく。

○製菓と調理の男女比はどうなっていますか。

製菓は9割が女性で男性は少ない。一方、調理は入学年度によって多少の違いはあるが、比率的には男性の学生の方が多い。製菓の方は、実際の現場では、男性を求めるケースも多いが、入口(入学)のニーズとしては、圧倒的に女子学生が多い。

○1年制課程のニーズはないのか。

先ほども伝えた通り、今は需要が減っている。以前、開設していたころは、就職難ということもあり、転職するにあたり、手に職を付けたいという社会人経験者の方も比較的多く希望者がいた。加えて、定年退職後、もしくは早期退職をして、学び直したいというニーズもあった。

今は、就職も売り手市場となり、転職も比較的簡単にできるため、既卒者からの入学の問い合わせが大幅に減っている状況である。

また、1年制課程は、最短で調理師免許が取得できるというメリットがある反面、入学後、すぐに

就職活動に入るので、非常に大変であるため、意識の高い学生でないと続かない。

○入学試験で不合格とした学生はその後、どうしたのか。

今年度は、パティシエ・ベーカリー学科で定員を超える応募者があり、厚生労働省養成施設であるため、定員を超える入学者を取ることができない。よって、残念ながら、不合格者を出した。

不合格者全員のその後の動向までは把握していないが、どうしても穴吹学園で学びたいという学生が第二志望である高度調理学科へ再度、応募の上、受験し、高度調理学科で合格をしたというケースがあった。その他、強くパティシエを将来の仕事として考えている学生は、他県、他法人の同様の学科を受験した学生もいると思われる。

学校に対しての要望

○卒業までに技術的なことだけではなく、接客のことについてもしっかりと教えて欲しい。

サービス接遇の授業もあり、接客についても実施しているが、ご要望ということもあり、改めて担当教員とも情報共有し、しっかりと接客ができる人材を養成していきたい。

5.事業報告

1) 学生数報告

年度当初93名、退学3名（家庭内事情、病気）、年度末での在校生数90名

2) 次年度学生数

出願78名（調理40名、製菓38名）、入学予定72名（調理40名、製菓32名）、次年度学生数112名（調理55名、製菓57名）

・OCの動員が増え、入学者数に繋がっている

3) 令和6年度 就職活動について

- ・卒業生数 50名
- ・進路決定者 50名（自主活動1名を含む）
- ・就職希望者数 49名
- ・内定者数 49名
- ・就職希望者内定率 100%
- ・業界内定率 98%

4) 令和6年度資格取得報告

各学科の主要資格・検定取得率について

- ・サービス接遇検定3級 52%
- ・パティスリーラッピング 65.4%
- ・製菓衛生師 50%
- ・技術考査 100%
- ・食育インストラクター 86%

○ご意見

製菓衛生師国家資格を取得していると、一部、医療機関などでも資格手当が出るところもある。無駄になるものではないので、しっかりと取らせてほしい。

回答

来年度、受けるからには合格するよう、まずは学生の意識改革を行い、改めて学生に伝えた上で、しっかりと対策を行っていく。

6..保護者アンケートについて

卒業年次対象生の保護者に対し、アンケートを実施し、まだ全保護者からはアンケートが戻ってきていないが、現時点での報告とする。

どの設問もA、B、C評価が8～9割を占める

○高評価項目

- ⑫専門分野の教育を学ぶ設備（機器備品）は充実している（A評価68%）
- ⑬清掃が行き届いており校内がきれいである（A評価73%）
- ⑭面倒見がよく、最後までフォローしてくれている（A評価64%）
- ⑮本校に入学させて良かったと思っている（A評価68%）

○気になる評価項目

- ⑨就職部は就職に関する支援・指導が充実している（D評価4名）
- ⑭面倒見がよく、最後までフォローしてくれている（D評価2名）

上記2点については、改めて関係部署と共有し、このような指摘がなくなるよう努力する。

7.その他

委員会の最後に、今春の入学者増加の要因の一部として、学校のキャッチコピーである「スキ進め」を徹底的に伝えていき、ここなら自分の好きなことで仕事に就けると共感した学生がいたことと、合わせて、沖縄インターンシップを実施し、これが他校にはない特徴として捉え、入学者増につながったことも説明したのちに、沖縄インターンシップへ参加した学生のインターンシップ先でのインタビューを撮影した動画を見てもらった。

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、教職員一同、日々努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

以 上